

今週のメニュー

■トピックス

◇ヤマネの生態調査用に塩ビ巣箱が活躍

－八ヶ岳筑波大学農林技術センター演習林の杉山先生が開発－

■随想

◇チュニジア旅行記（2）－空白地帯－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■お知らせ

○塩ビものづくりコンテスト2011展示会（大阪）のご案内

■編集後記

■トピックス

◇ヤマネの生態調査用に塩ビ巣箱が活躍

－八ヶ岳筑波大学農林技術センター演習林の杉山先生が開発－

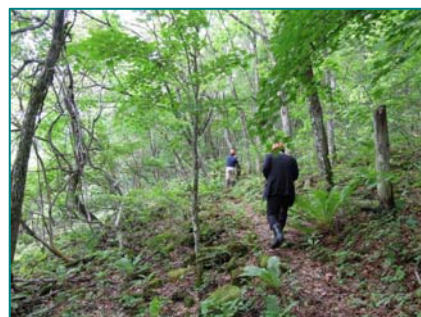
八ヶ岳の麓で山梨県との県境に近い長野県南佐久郡南牧村野辺山に、筑波大学農林技術センターがあり、日本固有の小型哺乳類で、「日本版レッドデータブック」の準絶滅危惧種に指定されている「ヤマネ」の生態研究をされている杉山昌典先生を6月末に訪ねました。ヤマネは体長8cm、体重18gほどの大きさで、本州はじめ四国、九州、隠岐島などの森に生息し、夜行性で冬眠するのが特徴です。

八ヶ岳や川上演習林はそれぞれ約80ha、188haの広さがあり、生態調査のために500個以上の巣箱をカラマツやミズナラ・カンバ類・カエデ類などの木々に設置して、広い行動圏での生息確認を行う必要があり、巣箱の設置や生息を調べるための労力と費用が大変だったと聞きました。杉山先生はこの調査を2006年から始められ、巣箱の形状や材質をいろいろと工夫され、2008年に塩ビパイプ・塩ビキャップと木材を組み合わせた「塩ビ木製巣箱」を開発されました。従来の木製巣箱と比べて、軽量でコンパクトに出来ることから従来の3倍近い巣箱を運べること、設置や解体回収が容易なため広い範囲の生態調査が出来るようになったこと、耐久性もありコスト面でも節約が出来たそうです。

センターでの説明を早々に終えて入山の手続きを行い、ヘルメットと長靴をお借りして、近くの川上演習林に連れて行って頂きました。山道に入るとほぼ等間隔に設置された巣箱が数えきれないほど設置されていました。中腹で車を降りて急な山道を登ると春セミの鳴き声や風に



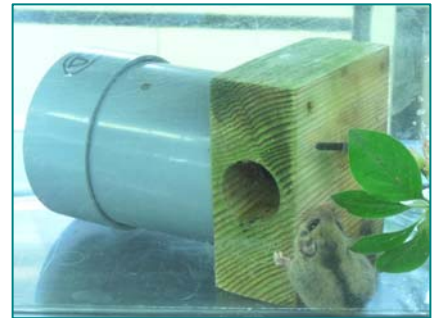
塩ビ木製巣箱



八ヶ岳 川上演習林

なびく森の響きに交じって、小鳥の鳴き声が萌える緑の向こうから聞こえてきました。黙々と巣箱を覗いて、ヤマネの確認を行う先生の後ろ姿に運動不足の我々は付いて行くのがやっとでしたが、ヤマネが潜む森の自然を楽しむことができました。

センターに帰ると、午前中の観察で捕獲していた3匹の「ヤマネ」の中から、1匹を見せて頂きました。好物の木の実と水を補給した巣箱は翌日にはもとの場所にヤマネとともに返されるそうです。ネズミの親戚とっていましたが、背中の縞模様や大きな黒い瞳とそのしぐさの可愛さに感激しました。NHKの“ダーウィンが来た！”で紹介されたビデオを拝見し、ますますヤマネファンになりました。



ヤマネと巣箱

翌日、清里にある「[やまねミュージアム](#)」を訪れました。この博物館はヤマネ研究で第一人者である湊秋作先生が作られ、現在も館長をされています。自然の大切さや素晴らしいさをヤマネの生態を通して学ぶことができます。湊先生は道路で分断された森に「アニマルパスウェイ」を全国に普及して環境保護にも努めています。是非、一度、この博物館を訪れて、森の中を歩いてみて下さい。きっと、近くで、ヤマネや小動物が皆さんを覗いていますよ。(了)

■ 随想

◇チュニジア旅行記（2）－空白地帯－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

最近紙に印刷された地図を見ることが少なくなったと思いませんか？以前は旅行などで知らない場所に行くときには地図を見て、どの道を通り、目的地に行くのかを確認していました。その途中、こんなところがあるのなら寄って行こうかな、とか、この場所はここにあるのかという発見もありました。

いまでは、車ならカーナビゲーションの指示に従い、右左に曲がっていくといつの間にか目的地に着いてしまいますし、徒歩や電車で行くときでも、インターネットや携帯電話で、どこの駅で乗換え、駅からどう行けばいいのかを事前に調べて行くことが多くなりました。家にいても、コンピュータを使い、目的地の名前や住所を入力すると、その場所の周辺地図だけでなく、その場所の写真も表示され、それを見ただけで行ったつもりになることもあります。

目的地に行くだけなら大変便利な機能ではありますが、その途中に何があるのかはほとんど気付くことがなくなりました。

チュニジアでもレンタカーを借りると、カーナビゲーションをお付けしますか？と聞かれることが多くなりました。旅先で道に迷い、目的地とは違いますが気に入った場所を見つけた。知らない場所で地元の人に道を聞く。言葉が通じないときは身振り手振り、イラストを描いて何とかコミュニケーションを行っているうちに、ちょっと家に寄って行かない、お茶飲んでいかない、これ食べてみる、など交流が深まることが多いので、目的地に急いで行くとき以外、旅行中、私はカーナビゲーションをできるだけ使わず、新しい発見のために紙の地図を利用しています。

日本でもチュニジアの地図を販売していますが、全国地図のようなものばかりで、首都のチュニスを除き、それぞれの街の市街地図は海外から取り寄せないと入手が困難です。また、料金も非常に高いものとなります。このため、できるだけ現地に行って、観光局やツーリストインフォメーション、市役所や町役場で地元の地図を入手しています。

現地で入手したある街の地図を見ているときに、それほど大きな地域ではないのですが、なぜか一部が空白になっている部分があることに気が付きました。他の地域の地図も確認したところ、いくつかの街、それも比較的大きな町の地図に空白になっている部分がありました。最初は、軍事機密施設でもある場所なのだろうと思っていましたが、場所的には町の中心部、それも繁華街の近くにあることが多いようです。

地元の人に聞いてみると、「外国人は行っちゃいけないよ」と答えます。行くなと言われても行ってみたいくなる私。早速、行ってみました。

そこは、普通の住宅街。明るい日差しの下、洗濯物が風にはためき、道では子供たちが遊んでいる平和そのものの日常風景。なぜこの場所を地図では空白にしなければならないのか、さっぱり分かりません??? その日、ホテルの人に「あの場所に行ってきたよ」と話したところ、「そんなに大きな声で言っちゃダメ。他の人に聞かれたらどうするの」と言われました。

以前、インドのある聖地に行ったときには、ガンジス川の対岸には決して渡ってはいけませんと言われてきました。その時も、じゃあ行ってみようという地元の漁師さんに「対岸まで載せて行って」と頼んだところ、「いいよ」と快く送ってくれました。対岸はやはり普通の村。外国人が来るのが珍しいらしく、子どもたちが集まり、どこから来たの?などと質問をしてくる様子を、大人は嬉しそうにニコニコしながら見ていました。

お茶や食事に誘われ、ご馳走になり、夕方、対岸に戻ったところ大騒ぎに。警察官が来て「なぜ対岸に渡ったのか」と事情を聴かれ、こちらの岸の人たちは遠巻きに離れて私のことを見ている。事情聴取が終わると、「すぐに清めの儀式を受けろ。儀式を受けなければ、この町から追放」と言われました。

そう、対岸の村はインドの身分階級、カーストにも属さない人たちが暮らす村だったので。その村に行き、更に飲食をした人は、彼らと同じか、それ以下になってしまうのです。その時は納得ができないままに清めの儀式を受け、インドの人が言う“普通の人”に戻りました。

チュニジアは宗教的にも文化的にも、インドのような身分階級社会ではありません。また、その地図の空白地帯は川などのはっきりとその地域を区分する境界線のようなものはなく、道を歩いていると、ある家から先は空白地帯になるという状態です。

う～ん、納得できないと、次の日、また、その空白地帯に行ってみました。空白地帯のことはそこにいる人に聞くのが一番と。

私「ここはどうして地図に載っていない場所なのですか？」
周りにいた人は大爆笑。女の方は「きゃ～」などと叫び声をあげる人も。余計に分らなくなってきました?? こういう時は学校の先生に聞いてみよう。近くにあった学校に飛び込み、校長先生にお会いして聞いてみました。

校長先生「YOSHIWARA」
さすが、校長先生。日本のこともよくご存じで \ (^O^) /
地元の人から見ると、超間抜けな外国人以外の何者でもありません (;^_^A アセアセ…

これとは別に、チュニジアの地図には広い森林が描かれていることがあります。それも、地中海性気候の海側ではなく、サハラ砂漠で多く見られます。サハラ砂漠に森林？ 砂漠の緑化計画が順調に進んでいるのでしょうか？ 早速、行ってみました。

鉄条網で作られたフェンスはあるものの、その先はやはり砂漠。軍事演習場かと思ったのですが、手入れもされておらず、所々フェンスが壊れ、半分以上、砂に埋まっています。フェンスが壊れたところでは、地元の人が普通に出入りしています。入ってもいいかと聞くと、ご自由にと言われます。フェンスの中で、緑化や演習が行われている様子もなく、ただサハラ砂漠が広がっているだけです。私有地でもなさそうです。地元の人に、なぜフェンスがあるのかを尋ねても、みんな首をかしげるばかり。

あるおじいさんが、子どもの頃、お年寄りから、その地域を治めていた首長が作ろうとした大オアシス計画の名残だと聞いたことがあると教えてくれました。

どのくらい前に計画をされた大オアシス計画なのかは分かりませんが、その計画を忘れず（地元の人には忘れていますが）、いまだに地図に掲載をしている。実現するのは、いつのことなのでしょう。

※ 国や地域によっては、司法や行政の力が及ばないため、地図が空白になっている場合がありますので、ご注意ください。

(つづく)

前回：[チュニジア旅行記（1）ースピード時代ー](#)

■ お知らせ

○塩ビものづくりコンテスト2011展示会（大阪）のご案内

塩ビものづくりコンテストの受賞作品・製品などの展示会が、大阪（7月19日(火)）にて開催されます。ご自由に入場いただけます。ぜひ、ご来場ください。会場案内図などの詳細は、[日本ビニル工業会のHP](#)よりご覧ください。

東京、名古屋での展示会は、盛況に終了いたしました。ありがとうございました。

■ 編集後記

六本木のAXISギャラリーで「塩ビものづくりコンテスト展」の立会いをしました。

「AXIS」はデザインに携わる人にとってはとても有名なデザイン誌です。もちろん私は知りませんでした。来場された方は、ふらっと来たデザイン関連の学生さんや近所に住んでいる方、観光に来られた海外の方など様々でした。普段話す機会がないような方と多く話をすることができてとても新鮮でした。

最終日には、終わって片付けしていると女性が数人見に来られました。5時半までの展示だったのですが、デザイン関係や六本木界隈の人は活動時間が遅いので普通もっと遅くまでやっているそうです。少しオープンの時間を遅らせ、終了を8時とかにすればよかったと反省しました。

今後の展示も開催する場所によって時間を変えるなど、考えなければいけないと思いました。（リマル）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp